

🌱 おとうふ工房いしかわ

「身近な“おとうふ”から、循環と共創をひろげる」

くるりんぱっく事業への挑戦

豆腐容器の循環と学びで地域をつなぐ

株式会社おとうふ工房いしかわ 社長室 室長

石川 麻利江

会社概要・自己紹介

おとうふ工房いしかわ

株式会社おとうふ工房いしかわ

🕒 歴史: 創業 明治年間 / 設立 1991年

👥 従業員数: 約500名

★特徴

国産大豆100%使用

国産大豆のみを使用した豆腐製造業で国内No.1
年間使用量: 約3,300t (うち契約栽培 約2,500t)

📦 商品展開: 約400種類以上
東海三県中心に直営店約40店舗運営

🏢 グループ会社: (株)八里屋 (三重県菟野町)
安城デンビール(株) (安城市)



登壇者プロフィール

石川 麻利江

社長室 CSV・CSR

Ishikawa Marie

- 東京大田区の町工場生まれ
ものづくりの精神が原点
- 東京農工大学大学院 修了
食品メーカー勤務等を経て入社
- おとうふ工房いしかわ入社
人事課を経て、現在は社長室としてCSV・CSR事業を推進



💡 転機

入社当初は「長男の嫁」と呼ばれることに葛藤。
「私自身の価値（石川麻利江）として、社会に何を届けられるか？」
この問いが、現在のCSV活動の原動力に。



きっかけ：あいち環境塾との出会い

01



出会い

あいち環境塾

「長男の嫁」ではなく、「石川麻利江」個人として参加できる場を求めて参加。

アカデミックな分野への関心と、現状へのモヤモヤが原動力に。

02



学ぶ

想いの構築

専門家の講義や異業種とのワークショップを通じて、自分の中に「環境に対する思い」が明確に構築されていく。

志を同じくする仲間とのネットワークも形成。

03



行動（転機）

塾での学びを社長へ報告。

『石川麻利江の名前を愛知県に刻み付けたら』

→ この言葉でスイッチが入る！

04



組織化

社外活動の活性化

社外での活動が増え、会社へのフィードバックも増加。個人の活動から会社の活動へ。

社長室 新設
CSV・CSR事業 本格始動



環境配慮型商品の開発：減プラスチック豆腐容器



社会・業界の課題

PROBLEM

- ▶ 海洋プラ・マイクロプラスチック問題がメディアにとりあげられる。
- ▶ 豆腐の販売はプラスチック容器の使用が一般的。
- ▶ 環境配慮型容器はコスト高のため、どのメーカーも二の足を踏んでいた。



解決策の実践

SOLUTION

業界初の導入

減プラスチック容器の使用開始。

プラ使用量を削減し、サーマルリサイクル可能に。

「ファーストペンギンになる」

コスト増でも企業努力で価格据え置き。まずはやる精神。



新たな気づき

INSIGHT

環境価値が伝わっていない！？

友人からの写真メッセージがきっかけで発覚。

これ減プラ容器の豆腐だね！！

『え？何のこと？』



消費者側の反応

「容器が変わったことに気づかなかった」

「環境に配慮していることが分からなかった」



ただ作るだけではダメ。消費者を「巻き込む」仕組みが必要。



くるりんぱっく事業の立ち上げ



事業の目的：消費者を巻き込む循環型社会へ

使用済みの豆腐パックを回収・再資源化し、教育資材として還元。
「自分ごと」として環境問題に関心を持ってもらうきっかけ作り。

壁 01

協力企業が見つからない

「軌道に乗ったら…」・「儲かるなら…」と断られ続ける日々。

🔑 突破口：行政の伴走支援

愛知県庁環境局が親身に協力。
再資源化企業の紹介・商談同席により信頼を獲得。

壁 02

衛生管理・再資源化の難しさ

回収容器の腐敗や再資源化に適さない素材の存在など、リサイクル素人ゆえの洗礼。

🚰 突破口：徹底したルール化

ルールの周知と保管方法の確立。
綺麗な容器のみを回収する仕組みへ。

壁 03

回収拠点の確保

回収ボックスをどこに置くか？
協力してくれる場所が必要も断られる…。

👥 突破口：地域の連携

コープあいち、高浜市役所・教育委員会、
直営店等多様なステークホルダーと連携。

🏗️ 実証実験の実施

🔍 回収量の把握、汚れ・異物混入の検証、再資源化性の確認

環境負荷低減効果の検証

再資源化によるCO2削減効果

47%削減



豆腐容器回収実証実験の様子（コープあいち日進店）



成果：まあるい定規と環境教育

SDGs 誰一人取り残さない



- ∞ 終わりなき循環の象徴
円周率 (3.14...) が続くように、環境への取り組みも続いていく。
- 💡 使い方をみんなで考える
「どう使う?」と考えるプロセスが、環境問題への向き合い方そのもの。

共創の輪：地域のパートナー



イラスト・デザイン

安城特別支援学校の生徒さん
パッケージのイラストを担当。
豊かな表現力が製品に彩りをプラス。



封入・加工作業

授産所 高浜安立
障がい者就労支援施設と連携。福祉と環境をつなぐ。



次世代へ：環境教育の展開

2024年～

市内 全小学校へ出前授業



オリジナル絵本制作



「環境問題を、自分たちの物語として楽しんで学ぶ」



プラス要因

- ✓ 長年の信頼とブランド資産
「おとうふ工房いしかわ」としてのこれまでの歩みによる、取引先・お客様との強固な関係性。
- ✓ 利他的な使命感 × 泥臭い実践
個人の利益ではなく、環境と地域のための行動。
「困っている」と声を上げ、周囲を巻き込む姿勢。
- ✓ エシカル消費の促進
容器回収が来店動機となり、企業にもプラスの循環を生む。

今後の展望

- 回収システムの確立と標準化
協力店舗・自治体を増やし、洗浄・保管ルールの徹底で持続可能な回収システムを構築する。
- 新たな再生プロダクト開発
まあるい定規だけでなく、新たな製品の開発。
- 産官学連携の深化
学校教育、行政、他企業との連携を深め地域全体での循環モデルへ。